

令和6年度 西濃管内の現状と課題

指導計画の工夫改善

○主題構成表を用いて、価値の分析、内容項目から見た児童の実態、教材の分析を行い、本時の展開について授業構想を立てようとしている。

○自己を見つめる場面において、具体例や視点を示すなど、児童生徒の実態や思考の流れに応じた工夫をすることで、児童生徒が自身の姿や思いを深く見つめることにつながっている実践が多くみられた。

●校種や学年の発達段階や内容項目の系統性を踏まえて計画をする。(評価の視点も含めて)

●子どもの実態とねらいのつながりを意識して授業を構想する。

指導方法と評価の工夫改善

○アンケート結果や自身の考えを可視化し、子ども自身が 学びの変容を捉えられるよう工夫した実践が見られた。

●望ましいと分かっていることを言わせたり書かせたりすることに終始している授業もみられる。

●「深めるための補助発問」がねらいを達成することにつながっているかという視点で授業を見直すとともに、児童生徒が考えを語る場をさらに設けることができるようにする。

学習集団の育成と学習環境の工夫

○自分の思いや考えを素直に仲間と交流したり、議論したりすることができるよう、学習集団を育成している学級が多くみられた。

○学級で行っている「よさ見つけ」や行事の様子等他の場面と関連づけながら授業を展開している。

●ICTの活用がまだまだ少ない。

令和7年度 特別の教科 道徳の観点

自己の生き方につなぐ

- ・ 学んだ価値について、一人一人の子供が自分ごととしてとらえ、向き合う授業。

「ぎふ いのちの教育」の充実

- ・ 「ぎふ いのちの教育」に関わる取組について、道徳教育を通じて推進。(道徳教育計画訪問との関連)

指導と評価の一体化

- ・ 児童生徒の実態を分析し、過程や方法を工夫した指導によって表出した子どもの学びの姿を評価する。
＜評価の視点を設定する＞